

序 はじめに

1. 計画策定の背景

新発田市は、平成 15 年に豊浦町と、平成 17 年に紫雲寺町、加治川村と合併し、新たな新発田市が誕生しました。合併後の平成 19 年には、旧新発田市、旧豊浦町、旧紫雲寺町の 1 市 2 町がそれぞれ策定していた「都市計画マスタープラン」を統合する形で改訂を行い、都市づくりを進めてきました。

近年、全国的に、人口減少や高齢化が進行し、平成 27 年の国勢調査では、調査開始以降初めて総人口が減少するなど、これまで経験したことのない人口減少・超高齢社会が到来しています。また、東日本大震災をはじめ、頻発する豪雨災害など、住民の防災に対する意識が高まっています。

新発田市においても、平成 27 年の国勢調査では昭和 55 年以降初めて総人口が 10 万人を下回り、今後も人口減少の進行が予想されています。

「都市計画マスタープラン」は、概ね 20 年後の都市のすがたを見据えて計画しますが、前計画策定時の平成 28 年度以降、新型コロナウイルスの世界的拡大などにより、居住環境の変化、在宅勤務等の労務形態の変化、憩いや娯楽の形態の変化等、社会環境全体が大きく変化しました。また、情報通信技術が目覚ましく進歩していることで、高度情報化社会は進展を続けています。これらに伴い、本市を取り巻く社会情勢も変化し、市民のニーズや価値観は多様化しており、「都市計画マスタープラン」の策定にあたっては、これらの変化に対応することが必要です。

また、市の最上位計画である「まちづくり総合計画*」では、大きく変化している本市を取り巻く社会情勢を下枠内のように整理しており、「都市計画マスタープラン」においても、これらの時代の潮流を踏まえることとし、今回、「都市計画マスタープラン」の改訂を行います。

■時代の潮流

- | | |
|-----------|--------------------|
| ①人口減少問題 | ⑤持続可能な開発目標（SDGs） |
| ②少子高齢化の加速 | ⑥情報通信技術（ICT）の進展 |
| ③地方創生の推進 | ⑦社会資本の老朽化 |
| ④安心安全への備え | ⑧ライフスタイルの多様化とまちづくり |

【資料：まちづくり総合計画（R2 策定）】

2. 計画の位置付け

「都市計画マスタープラン」は、都市計画法第 18 条の 2 の規定に基づいて策定される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、今後の具体的な都市計画の指針となるものです。

具体的な都市の整備は、「都市計画マスタープラン」に記載の方針に基づいて行われます。

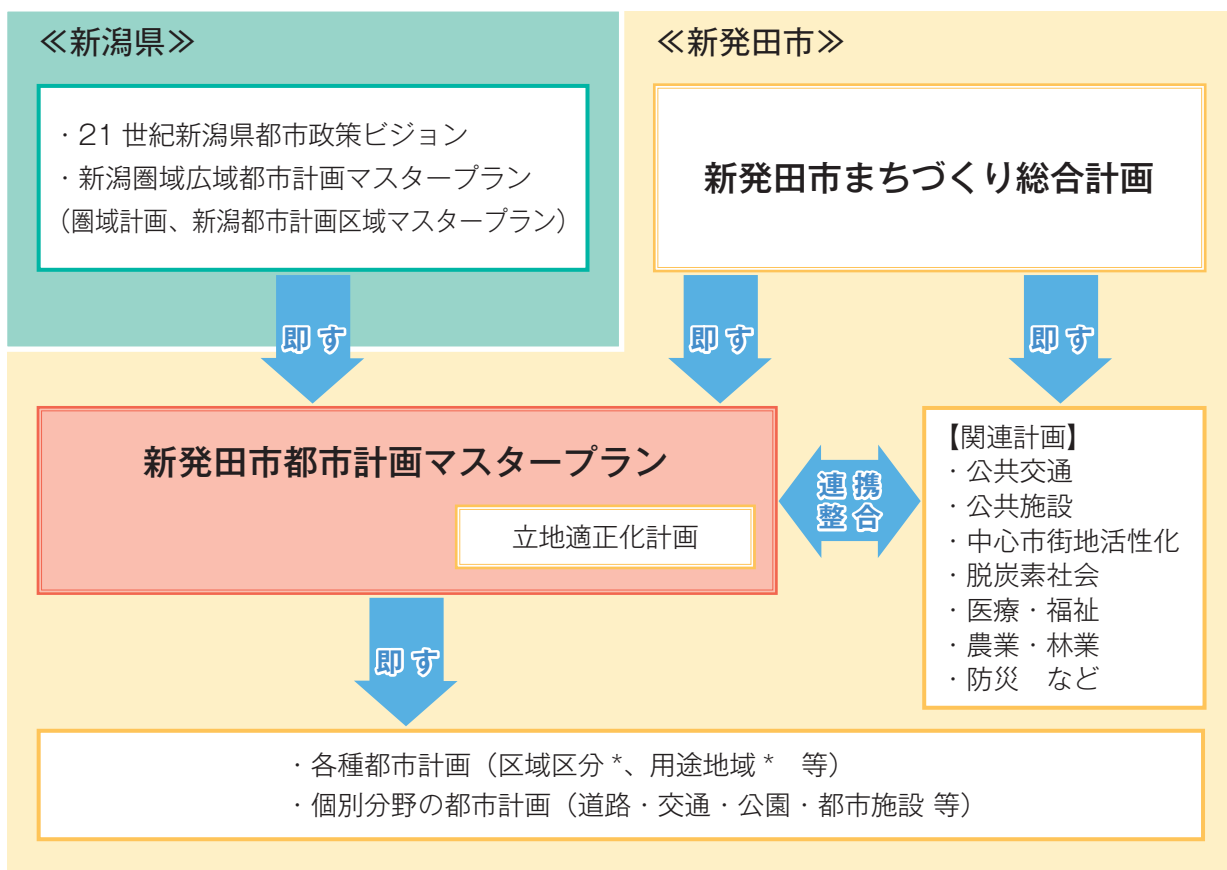
全市の視点から、都市の将来像や、まちづくりの方針を明らかにすることで、都市づくりの総合性や一体性を確保します。

また、まちづくりの具体的な方針を、市民・企業・行政が共有することで、今後の協働*のまちづくりの指針となります。

「都市計画マスタープラン」は、新発田市の最上位計画である「まちづくり総合計画*」や、新潟県が策定する「新潟圏域広域都市計画マスタープラン」を上位計画とします。

また、新発田市の策定する環境や福祉、防災等の各種分野の計画とも整合を図ります。

なお、関連計画の「立地適正化計画*」は、「都市計画マスタープラン」の一部とみなされます。

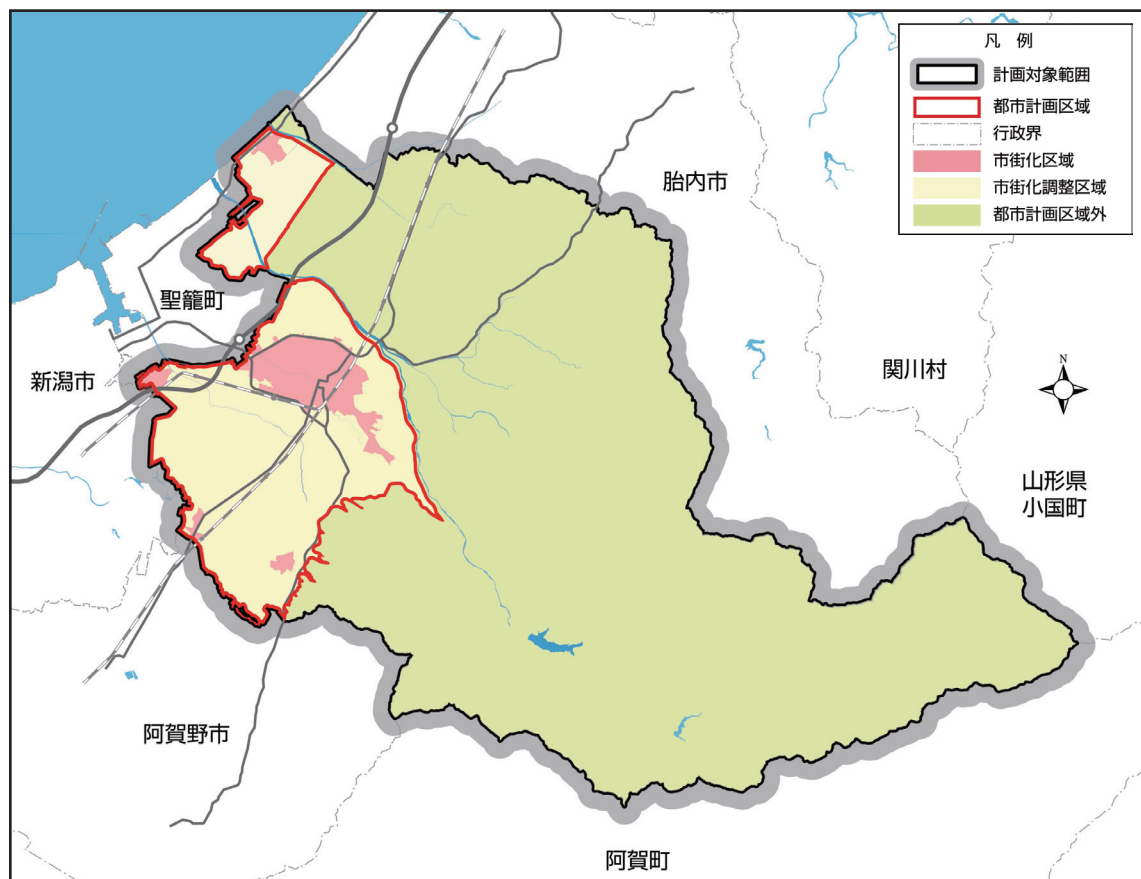


3. 対象範囲

本市の西部から北西部にかけての市域の一部（10,669ha）は、新潟市・聖籠町と共に「新潟都市計画区域」に指定されています。また、都市計画区域*では、すでに市街地を形成している区域及び市街化を図るべき区域である「市街化区域*」が、本市の中心部や佐々木、天王、月岡、藤塚浜に指定されています。

都市計画事業の対象は、都市計画区域内が主であり、都市計画区域内のみを計画の対象範囲としていましたが、人口減少や少子高齢化をはじめとした多くの社会情勢の変化や、環境や防災に対する市民意識の高まり、市民ニーズの変化に対応するためには、都市計画区域外も含めた全市域一体となったまちづくりの方針を示す必要があります。

これらのことから、今回の「都市計画マスタープラン」では、市全域を対象範囲とします。



計画対象範囲

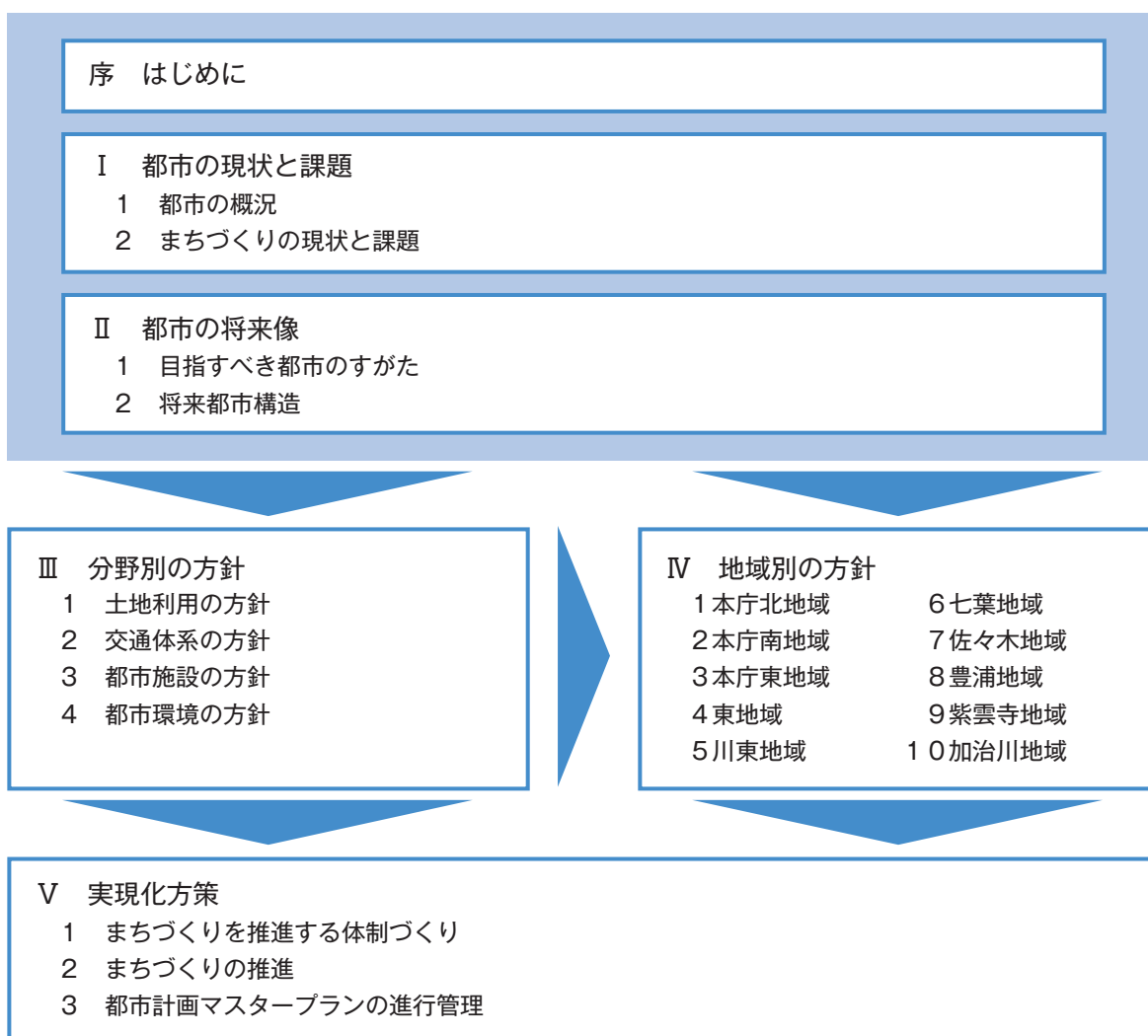
4. 目標年度

本計画は、概ね20年後の都市のすがたを見据えて策定します。計画目標年次は、令和18年度とします。

なお、関連計画の見直しや社会情勢の変化など、新たに対応すべき課題が生じた場合には、随時見直しを行います。

5. 計画の構成

「都市計画マスタープラン」では、現状や課題を踏まえ、都市づくりの理念などの「都市の将来像」を設定します。この目標の実現に向け、「分野別の方針」と、地域ごとの方針を示す「地域別の方針」などにより構成されます。



序
はじめに

I
都市の現状と課題

II
都市の将来像

III
分野別の方針

IV
地域別の方針

V
実現化方策

資料
編